

学校名（人吉市立人吉東小学校）

1つの前提・2つの視点の具現化に向けて
～授業参観チェックリストの活用を通して～

1 この授業をめざす子どもの姿（☆授業者記入☆）

2 学びをたのしむ姿について（☆授業者記入☆）

①「わかった」「できた」「なるほど」が生まれる姿	達成感	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[手立て] (先生の)</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>← そのために</p> </div>
②「なぜ?」「どうして」が生まれる姿	疑問・関心	
③なかまとともにがんばる姿	協働	
④学んだことを次に生かす姿	活用・追求	
⑤自分の考えを相手に伝える姿	表現	
⑥「もっと～たい!」が生まれる姿	向上	
⑦「え!もうおわり?」が生まれる姿	夢中	
⑧新しい発見(課題)が生まれる姿	発見	

研究の視点 ～協働解決場面における～		改善 ← → 良い
発問の工夫	・児童がなぜ?どうして?と考える主発問・ゆさぶり発問があったか (☆授業者記入☆)	1・2・3・4
	a (主・中心発問)	
	a (ゆさぶり発問)	
教員のコーディネート(ファシリテート)	・子どもが考えたいようなめあて・問いの設定だったか。 (☆授業者記入☆)	1・2・3・4
	a (めあて・問い)	
	・協働解決での場の設定はどうだったか (タイミング・内容・方法などのアイデア)	
	・多様な意見を引き出し、整理・分類して、まとめたか。 (どのように児童から考えを出させていたか) (子どもの声でつないで、整理していたか) ※板書づくりとの関連も	
・児童が活動していた時間(個人・ペア・全体) () 分	1・2・3・4	
	記録者()	

3 授業者への感想(できればその日にお渡しください。)

合計: /20

【ねらい・具体的な取組】

研究テーマ「学びをたのしみ、自ら高め続ける児童生徒の育成」の実現に向けて、授業者自身のマインドを変化させていくことをねらいとしている。

1つの前提・2つの視点が日々の授業で改善できるよう、「授業参観チェックリスト」を作成した。これは、「熊本の学び7つのチェックリスト」から本校で重点的に取り組みたいことをさらに抽出した。学習構想案ともリンクしており、子供のつぶやかせたい言葉（ゴールの姿）をイメージし、そのためにどんな手立てが必要か、また、どんなめあてや発問が適切か一目で確認することができる。

前提：（授業の終末で）つぶやいてほしい言葉の設定

視点：①子供が問いをもち、主体的に学ぼうとする質の高いめあての設定

②子供の深い学び・確かな学びを導くゆさぶり発問・活動の設定

【期待される成果】

- ①教師の授業改善
- ②主体的な児童の姿（学びをたのしむ姿）
- ③質の高いめあての設定
- ④教師のコーディネート力の向上
- ⑤児童の学力向上

学校名（人吉市立人吉西小学校）

「わかった」「できた」を感じさせる主体的な学びを目指した 西小
スタンダードの構築（読解力向上の取り組みを中心に）

研究テーマ

④ ① 「わかった」「できた」を感じさせる主体的な学びの創造
③ ② ～国語科を中心とした読解力向上の取組を通して～

<具体的な手立て>

「誰一人取り残さない学びの保障」に向けた「西小スタンダード」を構築していく

読解力向上のための学び方の工夫
言葉と場
学習の場
学習の場

単元デザイン(ゴール)を掲げ 1時授業の11分 ← 学習過程

① 単元における定着確認の在り方 授業の 国語の学習を促す

ふり返りシート・音読 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 分かる喜びを感じさせる個に応じた学びの場の保障

プリント・自習

① 読み書き等の習得を徹底させるための指導の工夫と家庭学習の習慣化

朝自習・宿題 指定

3分 (音読(速く) 九九計算) 音読カード タブレットも活用 視点



【ねらい・具体的な取組】

教師が共通の目標をもち、目標に向かって様々なアイデアをもとに共通実践していくことを目指している。

そのために、

- 読解力向上のための学びの工夫
- 単元における定着確認の在り方
- 分かる喜びを感じさせる個に応じた学びの場の保障
- 読み書き等の習得を徹底させるための指導の工夫と家庭学習の習慣化

の4つの視点について具体的にどのような取組をしていくとよいか職員全体で協議を行っている。

【期待される成果】

全員で協議することで、様々なアイデアを生かすことができる。また、取組の意図、やり方を共通理解して実践していくことで、学校全体で学力向上を目指すことができる。

学校名（人吉市立東間小学校）

すべての教育活動を授業の中で完結させるという意識をもって。



【ねらい・具体的な取組】

授業改善

1つの前提と3つの視点

前提
（授業の終末
で）つぶやい
てほしい子供
の言葉の設定

視点1
子供が問いをもち、
主体的に学ぼうと
する質の高いめあ
ての設定

視点2
子供の深い学び・
確かな学びを導
くゆさぶり発問・
活動の設定

視点3
子供が意図的
に表現する場
の設定

学習環境

学級経営を基盤とした授業づくり

- i-check結果を基に「本校の育てたい資質・能力」を具体的に設定した。
- 育てたい資質・能力を意識した教室環境・学校環境の整備。

- あいだっ子心の3か条の徹底
 - ・相手より先にあいさつをします
 - ・一生懸命そうじをします
 - ・だれとでも仲良くします

家庭学習

授業と家庭学習をつなげる出藍タイム

- 下校前の15分間、その日の授業を振り返り、苦手と感じたところなどから家庭学習のメニューを個人で検討する時間を設定
- 家庭学習の計画について教師からの助言を行うことで、個に応じた家庭学習を推進。

【期待される成果】

- 1 教師の授業の質の向上 学力充実
- 2 主体的に学ぶ子供の姿（学びを楽しむ姿）
- 3 働き方改革の推進

学校名（人吉市立大畑小学校）

基礎的・基本的事項を全校一斉に実態調査をしてから
各クラスで習熟を図る取組

昨年度末に共通理解していたように、4月からどのように成長したのか「子供の具体的な姿（事実）」で論じていきます。定期的の実態把握を行います。4月中に実態調査を実施していただいているところです。すでに実態調査を実施して下さっているところあります。ありがとうございます。以下、確認します。

1. 認知能力 漢字、計算、視写、音読

	漢字	計算	視写	音読
4月	前年度漢字大会等	前年度計算大会等	10分間視写(うつしまるくん10分間スピードチェック)	半ページ程度音読テスト
7月	第1回漢字大会	第1回計算大会	10分間視写(うつしまるくん10分間スピードチェック)	半ページ程度音読テスト
12月	第2回漢字大会	第2回計算大会	10分間視写(うつしまるくん10分間スピードチェック)	半ページ程度音読テスト
3月	第3回漢字大会	第3回計算大会	10分間視写(うつしまるくん10分間スピードチェック)	半ページ程度音読テスト

- (1) 4月の実態調査に関しては、**1年生は「ひらがなの読み調査」**を行う。
市販テストについているものでもよい。
- (2) 特別支援学級は、**担任の判断**で実態に応じて実施の有無を判断する。
- (3) 4月の漢字、計算については「前年度漢字大会等」のように「等」としている。
前年度のものがない場合は以下のようにして実施する。
 - ① 業者テストについている前年度テストなどを使う。
 - ② 自作のものを使う。
- (4) 実態調査実施後、**研修部に提出**する。
 - ① 名簿に点数等を記録する。**60点未満の児童には印**を付ける。
 - ② 視写は、**10分間で「学年×60字」**が合格とする。
 - ③ 音読テストは「**半ページ程度**で、詰まったり引っかけたりする数」が
0～1回：A、2～4回程度：B、5回以上：Cとする。
- (5) 実態調査結果は職員で共有し、授業や特別支援教育等に生かしていく。
- (6) 計算大会とともに**年度初めに、九九習得状況調査**も行う。それ以降は、**必要な学級学年のみ**行い、習得状況の実態調査を行っていく。
- (7) 実施は授業もしくは業間、アオバズクタイム等を活用して行う。

【ねらい・具体的な取組】

年度当初、校内研修テーマに関する実態調査を行った。本校は「書く」「対話」によるアウトプットで学力を高めることをテーマとしている。そこで、以下の項目を調査した。

- 1 漢字の読み・書き
- 2 九九習得状況
- 3 四則計算
- 4 視写
- 5 音読

その後、担任が行動目標（数値目標）を立てた後、その目標を達成するために朝自習（アオバズクタイム）や授業等でトレーニングを行ったり、担任が図書館に連れて行って本を借りる機会を多く設けたりしている。

【期待される成果】

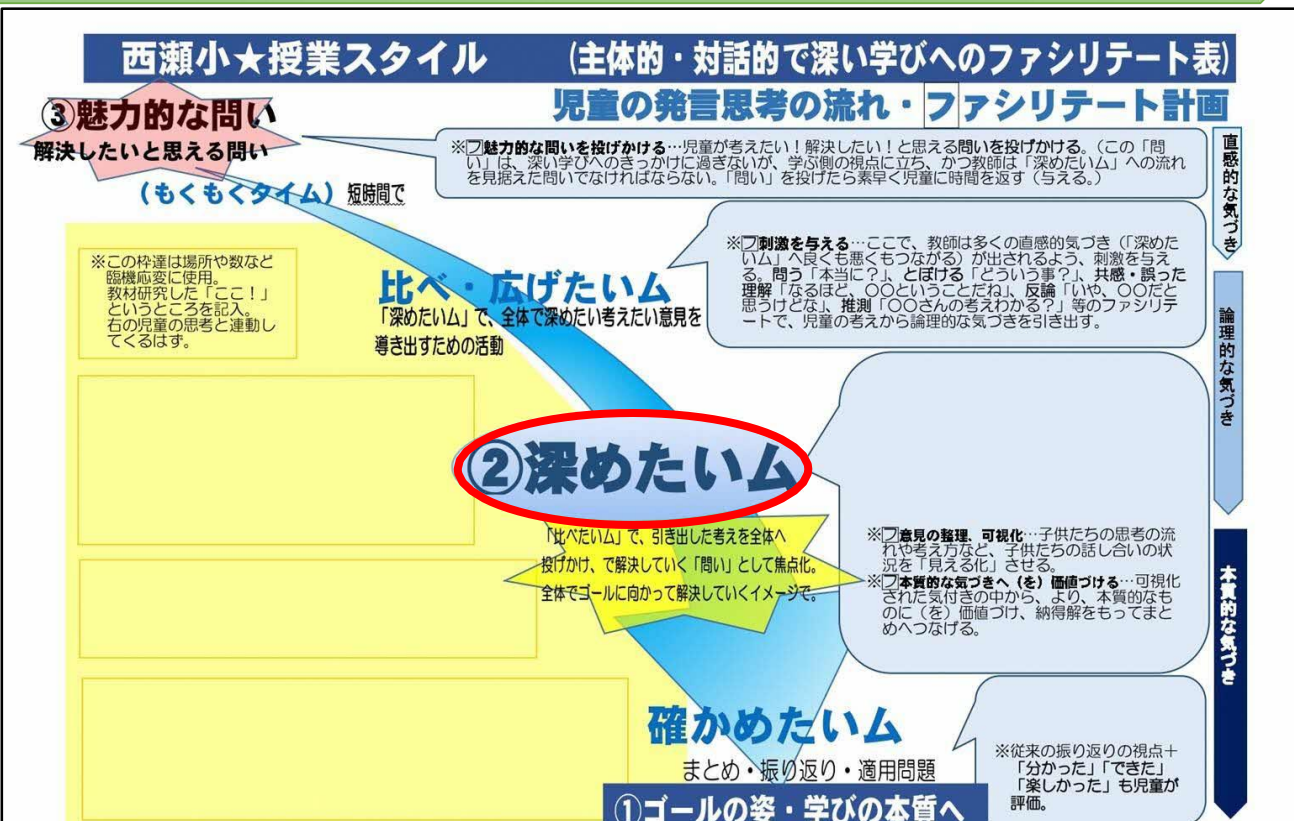
学期末に、調査統計部でアンケートや上記実態調査、教師の行動目標達成度に関する自己評価を行う。子供に伸びた点を伝えて励ますことで、自分たちの成長を実感することを期待している。



学校名 (人吉市立西瀬小学校)

「熊本の学び」の学校化

「深めたいム」を核とした授業づくり＝深い教材研究とファシリテート計画の作成



【ねらい・具体的な取組】

- 従来の教師が教える「授業」から、「子どもたちと作る学びの場」へと、授業改善を図る。
- それを支える「深い教材研究」と、左のファシリテート表を活用。
 - ①教師はゴールへ向かい児童の発言を引き出し繋ぎ、価値付けするファシリテートを計画。
 - ②授業の本質に迫る学びの場＝「深めたいム」を核として設定。
 - ③意欲を持続させ、児童の学びがつながる価値ある「問い」を検討・吟味するのも醍醐味の一つ。

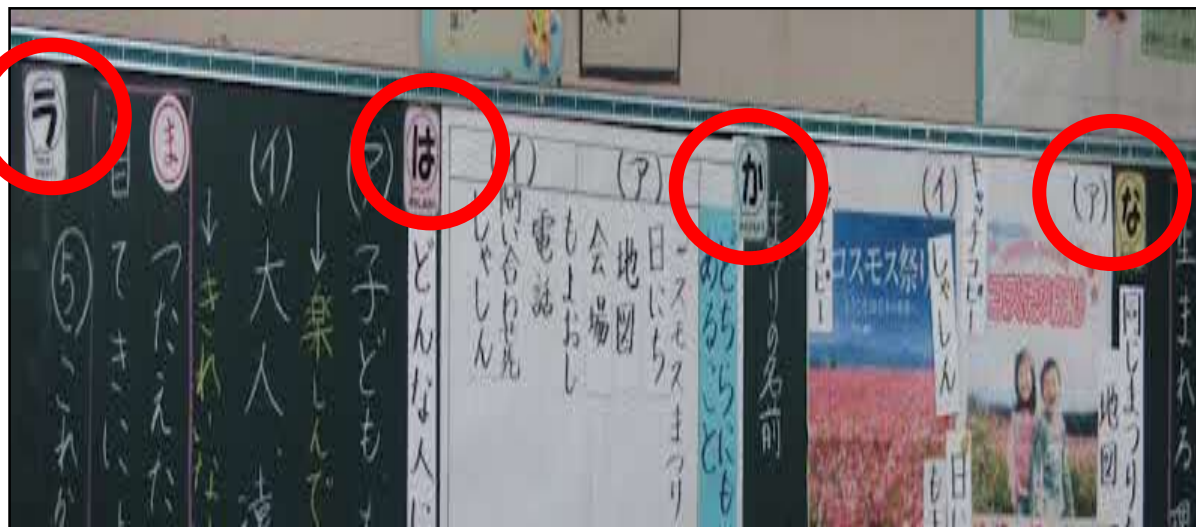
【期待される成果】

- 児童が教師のファシリテートの下、主体的に学びの場(＝授業)に参加することができれば、「わかった」「できた」という、学ぶ「楽しさ」を味わわせることができる。
- ファシリテート表を活用することで、教員同士同じベクトルで教材研究や省察ができ、OJTのよき場となっているとともに、単元・授業デザインの重要性を再確認することができる。



学校名（人吉市立中原小学校）

「中原メソッド」による授業の工夫改善



【ねらい・具体的な取組】

昨年度から引き続き、主体的な学びが生まれる学習過程の工夫として、熊本の学び推進プランをもとに「わかる」「できる」喜びを味わう学習過程「中原メソッド」を作成し、取り組んでいる。

『な』んでかな

『か』んがえよう

『は』なしあおう

『ら』ストだ！ふりかえろう

「子供の活動」とそれに伴う「教師の手立て・支援」を具体的に示している。どの学級・どの教科でも同じ学習過程で授業展開をし、児童の主体的な学びにつなげられるようにしている。

【期待される成果】

同じ学習過程をとることで、児童が1時間の中での授業の見通しをもつことができ、まとめに向けて児童が主体的に学習に取り組むことができるであろう。

学校名(錦町立西小学校)

学習の振り返りの視点



すなおにふりかえり

す・・・すすんでとり組めたかな？
前とくらべてどう？ これからは？

な・・・なっとく・なるほどと思ったわけ
ここをくふうしたなあ
なかまのよいところ

お・・・おー！できた！ わかった！



【ねらい・具体的な取組】

- 教師の評価と児童の自己評価の視点を統一
→知識・技能、思考力・判断力・表現力、
学びに向かう力・人間性等の3つの観点
- 児童になじみやすくする
→本校の教育目標の合言葉の頭文字を活用
「す・すすんでとりくむ（主体的に取り組む力）」
「な・なかまととりくむ（協働する力）」
「お・おもいやり（人間関係力）」
- 振り返りの文の記述に慣れさせる
→低学年用の観点カードには、振り返りの
観点を文型で示す

【期待される成果】

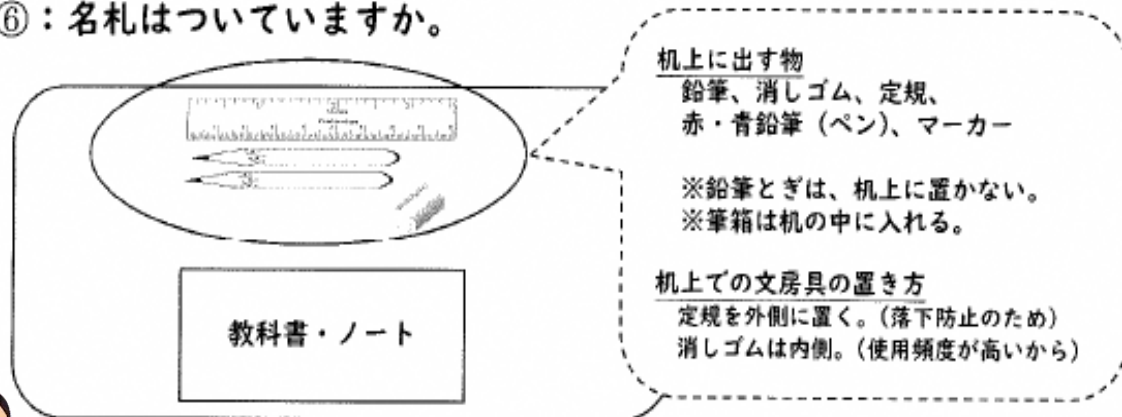
- 全学年・全教科で活用できる
→児童にもなじみやすく、新たに赴任した
職員もすぐ取り組みやすい。
- 授業の終末で、「今日は『な』で振り返り
ます。」と簡単な指示だけで取り組める。

学校名（錦町立一武小学校）

共通実践事項の徹底に向けて

学習規律の定着を目指して（担任用）

- ①：始業前には、席についていますか。
- ②：机上の整理（下図）はできていますか。
- ③：正しい姿勢（ペタン・グー・ピン）で学習に臨んでいますか。
- ④：正しい鉛筆の持ち方ができていますか。
- ⑤：「はいっ」と大きな返事ができていますか。
- ⑥：名札はついてますか。



【ねらい】

共通実践事項の確実な実践（教師）と定着（児童）を目指す。

【具体的な取組】

月に1度、「学習規律チェック週間」を設定する。学習規律チェック週間では、学習規律部が各学級に入り、児童の状況をチェックする。共通実践項目ごとに、「○、△」で評価する。評価結果は担任に返すようにし、学級担任は、改善に努める。改善が見られるまで同じ項目でチェックするが、共通実践項目が達成されると、項目を変更する。

【期待される成果】

- ・毎月継続的に取り組むことで、教師・児童ともに「共通実践事項の徹底」を図ることができる。
- ・達成できた項目については、児童の努力を認め、児童の自己有用感を高めることができる。

学校名（錦町立木上小学校）

主体的に取り組み自分の考えや思いを表現できる
対話的な活動「話しタイム」



【ねらい・具体的な取組】

昨年度、見通しカード（わかっていること・尋ねていること・気付いたこと・前時と違うこと・めあてづくり）を使って、児童主体となって考えを出し合っていていき、本時のめあてづくりまで自分たちでできるようになった。

また、振り返りの視点カードを使って、まとめの内容に関連した振り返りをする児童が増えた。そこで、今年度は、展開の部分を中心に、自分の考えや思いを表現し伝え合う力を高めるために、対話的な活動「話しタイム」を取り入れ、表現力を高める活動を設定した。

3年生算数科の「一万をこえる数」では、数のまとまりに着目して、千万の位までの計算の仕方を考えたり、説明したりする場面で「話しタイム」を設定し、ペアで話し合い、全体に広げた。その際、算数用語や説明用語を提示し、既習事項を活用しながら、自分や友達の考えのよさに気付いていくようにした。

【期待される成果】

児童同士で「もしも・例えば・なぜなら・たぶん」などの説明用語や「不等号・数直線・ぼうグラフ」などの算数用語を活用した対話の場を設定することで、児童は主体的に学び、互いの考えを比較し、共通部分や相違点に着目させることで考えを深めていくことができる。また、児童の考えを深めるための教師のコーディネート力の向上につながるものと考えられる。

学校名（あさぎり町立上小学校）

対話の時間



【ねらい・具体的な取組】

上小学校の授業スタイルでは「学び合い」を学習過程の中に位置付けている。児童が豊かな学び合いを行うためには、対話の力を身に付けておく必要がある。現状としては、単元やその時間のめあてを達成するための期待する学び合いの姿には至っておらず、深まりのある学び合いになっていないことが課題となっていた。

そこで、毎週水曜日の朝に「対話の時間」を設定して、全校で同じテーマについてペアで対話を行うことで、対話力を高めることを目指している。ここでは、相手の話を傾聴することや適切な質問をすることなど身に付けるべきスキルを整理し、月ごとにテーマ設定して対話を楽しみながらスキルアップを図っている。

【期待される成果】

児童は「対話の時間」での友だちとの対話を楽しんでいる様子が見られる。話しやすい話題で対話する経験を積むことで、授業中にも積極的に意見交流する習慣が身に付き、意欲的な学び合いを通して思考が深まっていくことが期待できる。

学校名（あさぎり町立免田小学校）

学習委員会における児童主体の取組



【ねらい・具体的な取組】

学力向上対策として、教師からの提案だけでなく、児童の主体的な取組を促すために、学習委員会を立ち上げた。

委員会の活動としては、主に3つある。

- ①月1回の自学・漢字コンクールのノート選びを行い、コメントを記入し、掲示板に掲示する。
- ②学力充実月間の学習目標を決める。
- ③日々の学力向上に向けての取組を提案する。

【期待される成果】

- ①学習委員会が「おすすめの自学・漢字」を選ぶことで、自学や漢字の内容が充実する。
- ②委員会からの提案ということで、他の児童も関心をもち、自分たちの学習をよりよくしていこうという意欲・態度が向上する。

学校名（あさぎり町立岡原小学校）

朝の学力充実タイム



【ねらい・具体的な取組】

本校の課題として、読み、書き、計算等の更なる習得の徹底があげられる。そこで、毎週、木曜日に国語科、金曜日に算数科の学力充実に取り組み、基礎学力の向上を目指す。

内容は、フォローアップシート、たしかめドリル等の中から、実態に応じて選ぶ。また、特別支援教育支援員、管理職も入り、丸つけと個別指導を充実させる。

【期待される成果】

熊本県学力・学習状況調査の結果を受けて取り組む内容を決めることで、未定着内容を繰り返し復習することができる。また、二人体制で指導することで、子供たちは分からない問題を質問しやすくなり、個別指導を充実させることもできる。年間を通して取り組むことで、基礎学力が向上し、そのことにより、日々の学習活動も充実することが期待される。

学校名(あさぎり町立須恵小学校)

計画的な校長・教頭による授業参観

【ねらい・具体的な取組】

校長または教頭が、毎週1回、学級担任及び教科担当(理科)の授業を指導参観する。

◆ねらい

担任等の授業改善や授業力向上、児童の様子及び学級の実態の把握。

◆具体的な取組

- ①担任等は、週計画に希望する日時、教科等を記入する。
- ②校長または教頭が授業を参観し、授業終了後に、「参観の記録」を授業者に渡す。その際、個別にアドバイスをを行う。

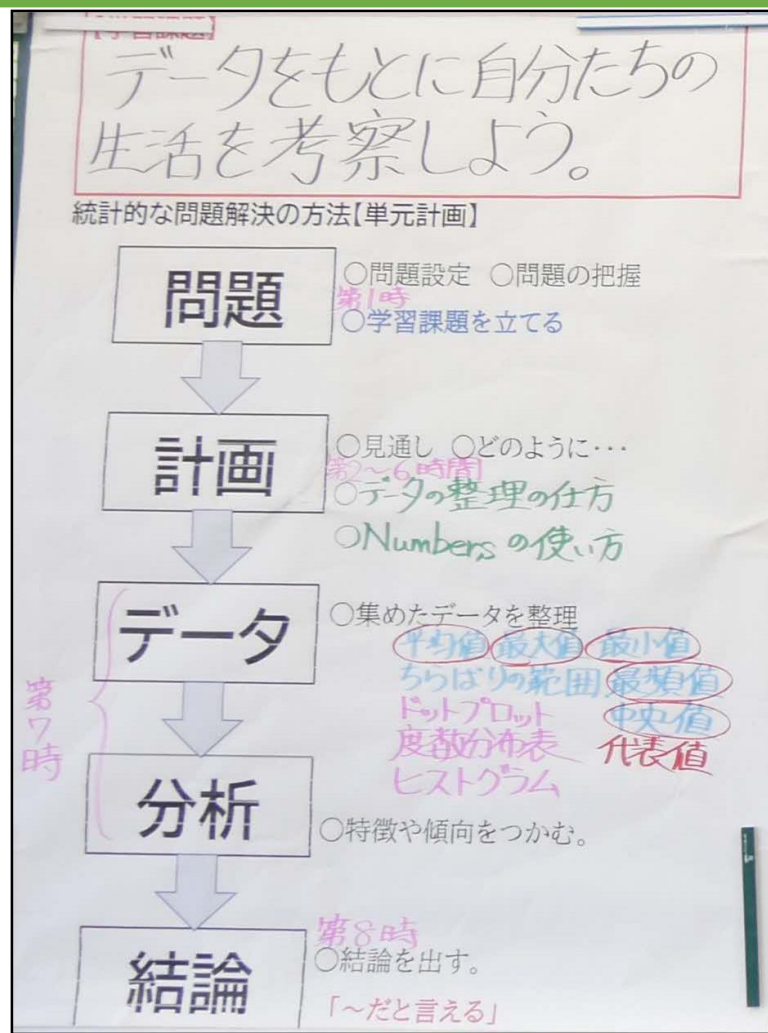
【期待される成果】

- ・教材研究を丁寧に行い、よりよい授業を目指す意識が高まり、授業改善につながっている。
- ・授業の良い点を中心に指導してもらえるので、授業者が自信をもてる。
- ・日常の授業を参観してもらうことで、児童の自然な姿が表れる。



学校名（あさぎり町立深田小学校）

単元デザイン・課題設定の工夫



【ねらい・具体的な取組】

児童が意欲的に学習に取り組み、対話の充実が図れるように単元デザイン・課題設定の工夫を行う。単元のゴールや単元計画を最初に示し、どんな課題を設定すればよいかを児童と考え、共有した。

6年生算数「資料の調べ方」では、学校で取り組んでいるがんばりウィークの結果から、6年生の生活リズムについてどんなことが言えるのか課題を設定した。児童に「統計的な問題解決の方法」を提示した。提示した「統計的な問題解決の方法」と照らし合わせて、結論を出すまでの見通しとして、単元計画を設定した。

意図的に学習したことを活用する場面を設け、単元計画の中に学んだことや大切な言葉を書き込んだ。

【期待される成果】

単元のゴールを意識した単元デザインや学習課題を工夫することで、児童の意欲につながる。また教師も、単元デザインが対話活動の充実や振り返り、家庭学習のあり方等すべてにつながることを認識することができる。

学校名（多良木町立多良木小学校）

「熊本の学び」を実現し、教職員の授業力向上を目指す取組
～校内研修の充実を通して～

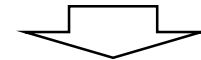


【ねらい・具体的な取組】

- (1) 全員が研究授業を実施
→授業を行う教職員全員が、学習構想案を作成しての研究授業を年間に1回以上行う。
- (2) 熊本大学教育学部附属小学校との連携
→研究授業で助言・指導をしていただいたり、校内研修のテーマに沿った具体的な方策を教えていただいたりする。また、熊大附属小の夏の研修会に複数名参加する。
- (3) 校内研修で「熊本の学び」ステップ・アップ研修を受講
→全員で「熊本の学び」について共通認識し、授業に生かす。

【期待される成果】

- ・授業改善と教職員の授業力の向上。
- ・全教職員で実践を積み上げることによって、校内研修のテーマの実現につながる。
- ・「熊本の学び」を実現



児童の学力の向上へつながる

学校名（多良木町立久米小学校）

対話を通して深い学びの授業



【ねらい・具体的な取組】

児童一人一人が、1単位時間の中で「納得!」「確かに!」と学びを、もう一步深めることができるようにするために、友達に意見や質問を臆せず言い合い、互いに協力して考え合ったり、話し合ったりする時間の充実を図っている。

① 授業のコーディネーター（教師）は次のことを明確にする。

- ・身に付けさせたい力
- ・単元を通して児童とともに解決したい問い
- ・その解決に向けた1単位時間の学習課題
- ・深めたい学び

② ①の事から次のことを吟味する。

- ・どのタイミングで何について対話させるのか。
- ・深める発問は。

【期待される成果】

児童は、友達やコーディネーターとの対話が充実し、納得したり、新たな発見があったりすると学びをもう一步深めることができる。そこで新たな考えに気付いたり自分の意見を深めたりすると、考えを再構築し、次の学びへとつなげられるようになる。

また、児童の学びを深める授業をコーディネートすることで、児童は学ぶことの楽しさを知り、一人一人が生き生きと学ぶことができる。

学校名（多良木町立黒肥地小学校）

自ら決めて取り組む朝学習と自主学習
～「やってみよう」「できた」で学習意欲を高める～



【ねらい・具体的な取組】

- ①自己決定・自己選択する学習体験の場の設定
 - ・学習を自己管理する力を育てることをねらいとしている。
 - ・「課題の自覚化」「学習方法の決定」「振り返り」によって、児童自身が課題や学習活動を決定する。
 - ・個々の実態に応じた内容かどうかを進捗評価し助言する。
- ②自主学習
 - ・家庭学習の習慣を確立し、意欲的に自主学習に取り組むことをねらいとしている。
 - ・「いつ」「何を」「どのように」学習するのか、黒っ子タイムに計画をたてる。
 - ・よい取組を全体に紹介する等、主体的な学びを広めるように努める。
 - ・黒っ子タイムでの学習と家庭学習がつながりのある学習活動となることを意図して、計画・実践を行う。

【期待される成果】

- ・児童が自分に合った学習活動を行うことで、「やってみよう」という意欲、「できた」という達成感を持たせることができる。
- ・学習方法や自主学習の内容によって、個に応じた学びを行うことができ、学習活動への興味関心や知的好奇心を高めることができる。

学校名（湯前町立湯前小学校）

「湯前小学習基本スタイル」の取組 （「熊本の学び」の自校化）

「湯前小の学習過程（基本スタイル）」（単元・1単位時間）



【ねらい・具体的な取組】

児童の主体的・対話的で深い学びの実現のために、1単位時間の学習の流れを具体的に示した「湯前小学習基本スタイル」を作成し、教職員で共通理解を図る。

○つかむ

（「なぜ」「おそらく」）

児童の疑問、驚き、矛盾、困惑等から本時の問いを見出したり、学習の動機付けを行ったりする。

○もとめる、深める

（「やってみよう」「なるほど」「きっと」）

一人学びの糸口をつかむところから、論理的な気づき、本質的な気づきへと学びの深まりをねらう。

○まとめる

（「分かった」「できた」「もっとやってみよう」）

学びの成果を自覚することで、さらなる課題への意欲へとつなげる。

【期待される成果】

1単位時間の授業を「湯前小学習基本スタイル」に落としこむことで、児童の活動や思考過程を想定しながら、教師の発問やICTの活用場面等を計画することができるようになる。

学校名（相良村立相良南小学校）

3つの健康を意識する掲示版



【ねらい・具体的な取組】

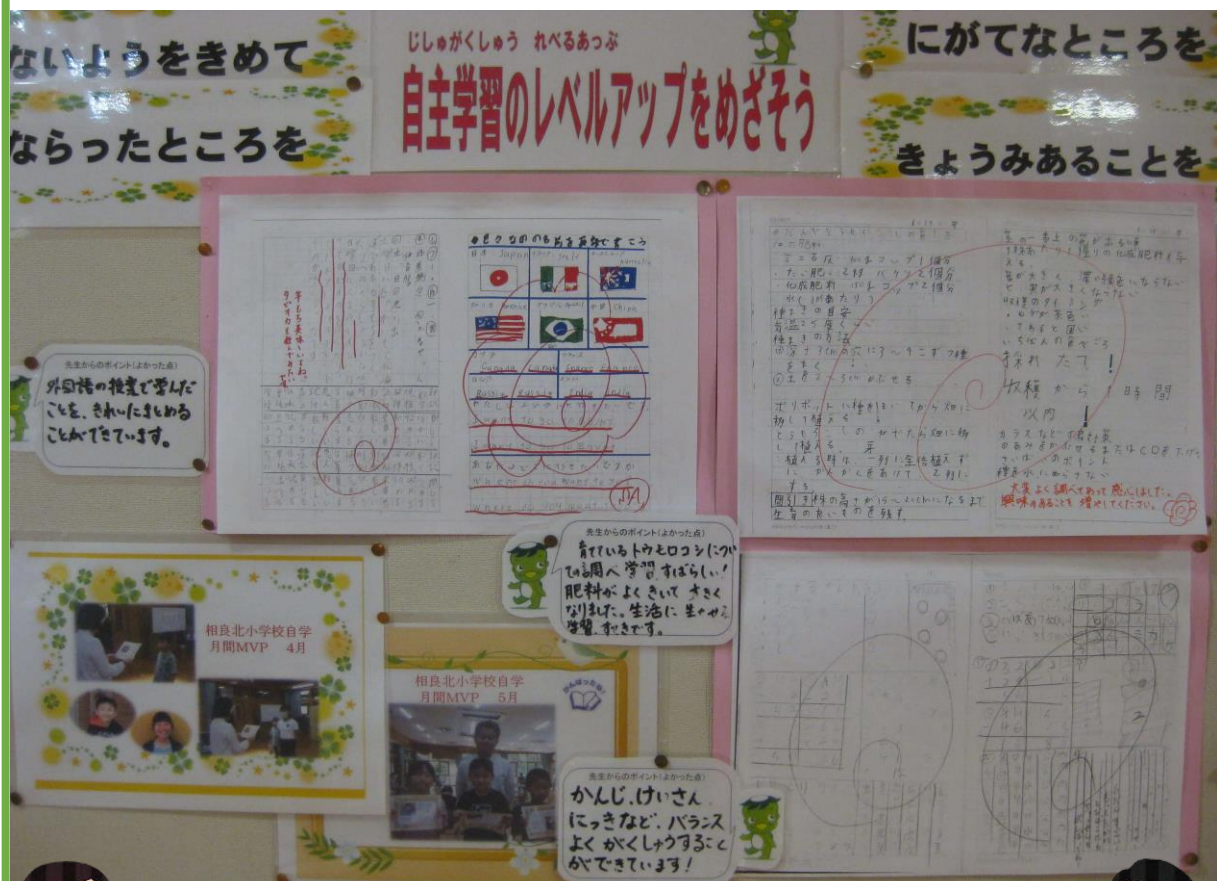
- ・本校の健康教育の取組のあしあとを掲示している。
- ・健康を3つにわけ、「心の健康」「頭の健康」「体の健康」それぞれの取組を1つの大きな木に見立てて掲示している。
- ・「心の健康」... 道徳の授業のあしあとや板書
- ・「頭の健康」... 自主学习ノートで行う「ノートコンクール」のお知らせや書き方のポイント
漢字・計算大会のお知らせ
- ・「体の健康」... 健康診断の写真
アップアップ体操やストレッチタイム写真

【期待される成果】

- ・児童が3つの健康があることを意識できる。
- ・ノートコンクールや漢字・計算大会の事前の通知をすることで、児童が継続して取り組み、基礎基本の定着を図ることができる。

学校名（相良村立相良北小学校）

自学MVP



【ねらい・具体的な取組】

（ねらい）

- ・ 自主学習への意欲および質的向上を図る。（具体的な取組）
- ・ 月末に各学級から1名ずつ「自学MVP」を選定し、全校児童の前で表彰を行う。
- ・ 自学MVPの児童に限らず、工夫が見られるノートのコピーを廊下に掲示し、友達の学習のしかたのよさを自分のノートに取り入れて、改善のための視点を与える。
- ・ 担任からのコメントを掲載することで、さらに児童の意欲を高める。

【期待される成果】

- ・ 自学MVPとして表彰することで、自主学習への意欲や自己肯定感を高める。
- ・ 他者の取組と自身の取組とを比較することで、学習の仕方やまとめ方を身につける。
- ・ 異学年の学習状況を見ることで、下学年の内容を振り返ったり、今後の学習の見通しをもったりする。



学校名（五木村立五木東小学校）

小中一貫して学習規律の定着を図る取組

「五木っ子学びの基本」一覧表

校種 学年	小学校			中学校	
	低学年	中学年	高学年	全	
授業前	学習用具	○授業で使うものを用意する。 ・筆箱（2B鉛筆・赤鉛筆・青鉛筆・消しゴム・名前ペン・定規・下敷き・指示があれば、タブレットPCも用意する。）	○授業で使う道具を用意する。 ・筆箱（2B鉛筆・赤鉛筆・青鉛筆・消しゴム・名前ペン・定規・下敷き・指示があれば、タブレットPCも用意する。） ・国語辞典など	○授業で使う道具を準備する。 ・筆箱（2B鉛筆・赤鉛筆・青鉛筆・消しゴム・名前ペン・定規・下敷き・指示があれば、タブレットPCも用意する。） ・国語辞典など	○教科書、ノート、ワーク、フォールディングノート、筆記具などを机上に準備して待つ。 (指示があれば、タブレットPCも用意する。)
	姿勢態度	○先生が来られるまで静かに待つ（1分前には席に着く）			○定刻前に着席して待つ。 ○身だしなみを整える。
授業中	あいさつ	○あいさつの後に礼をする。			
	返事	○指名されたら、「はいっ」と返事をして立つ。			
	挙手	○指先を伸ばし、手はまっすぐ挙げる。			
	姿勢	○読むとき、書くとき、発表する時は姿勢に気をつける。			
	聞き方	○聞くときは、発表者を向いて、反応しながら聞く。			
	話し方	○場に応じた適切な声の大きさで、聞いている人が分かるように発表する。			
その他	○学習が終わったら先生に聞いて、自分の次の学習を始める。	○課題が終わったら、自分で課題を見つけて自分で学習を始める。	○課題が終わったら、自分で課題を見つけて自分で学習を始める。	○本時の学習の様子をふり振り返り、自己評価する。	
授業後	机上引き出し ○授業が終わったら机の上を片付けて、次の授業で使う物を用意する。				



【ねらい・具体的な取組】

本校研究テーマ「主体的に学びに向かい、自分の思いや考えを表現できる児童の育成」を実現させていくために、学習の基盤となる学習規律の徹底を小中一貫して取り組んでいる。これにより、学級の安定した雰囲気づくりにつながり、児童が自分の考えや思いを表現しやすくなると考えている。

また、研究授業時には、参観者が学習規律についてチェックを行い、その結果をもとに、改善に努めている。

【期待される成果】

- ・学力向上につながる。
- ・学級の安定した雰囲気づくりにつながり、児童が自分の考えを安心して発表できる。
- ・発表の仕方等ルールが徹底されることで、学習リーダーの力が発揮され、児童が主体的に学習に取り組むことができる。
- ・考える場面と話し合う場面のメリハリがつく。

学校名（山江村立山田小学校）

5分間漢字チャレンジ自分で計画・実行・調整・練習



【ねらい・具体的な取組】

ねらい:自分で計画を立てて

学ぶことができる児童の育成

- ・全学級での共通実践事項として実施。
- ・テスト範囲とテスト期日を事前に予告。
その日までの計画を各自が立てる。
- ・各自で計画・実行・調整・練習を繰り返しながら、目標達成を目指す。
- ・計画の内容(例)
練習する新出漢字数
媒体(ドリル、デジタル教科書、ノート等)
学習の進め方(ミニテストの回数や時期等)
テストでの目標点数

【期待される成果】

- ・**自己調整力**の育成
- ・「やまだっ子プラン」実施に向けた学び方の基礎を身に付ける。

学校名（山江村立万江小学校）

学習過程における児童の自己選択, 自己決定の場の設定



【ねらい・具体的な取組】

5・6年生外国語科の学習において語句や表現の習得、定着を図る場において「デジタルコース（一人でデジタル教科書を使って練習する）」「友達コース（友達と一緒にやり取りをしながら学び合う）」「マンツーマンコース（ALTと個別に練習する）」を設定し、自分にあったコースを選んで活動するようにする。

【期待される成果】

個にあった練習方法を選ぶことで、語彙や表現がしっかりと身につく。また学びの場を選ぶときに、自分の学びを振り返ることが必要になるので、自己評価力の育成にもつながる。さらに語彙や表現を習得するための学び方を知ることができ、自立した学びにつながる。

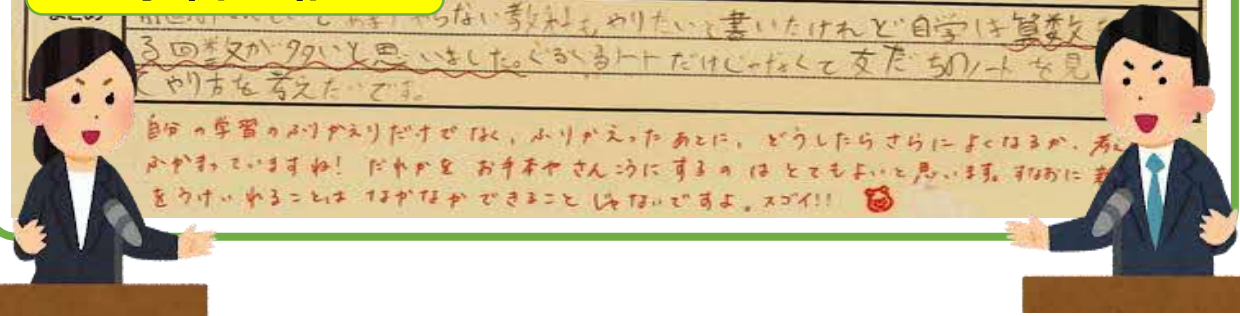
学校名 (球磨村立渡小学校)

家庭学習の質的向上を図る
学校と家庭の二人三脚の取組

ぐるぐるノート



学習日記



ぐるぐるノート

【ねらい】

- ・保護者から励ましのコメントをもらうことで、普段の自学ノートに取り組むやる気につなげる。
- ・他の子供の学習内容を見ることで、我が子の家庭学習の取組内容や学習量について関心をもってもらう。

【具体的な取組】

- ・低・高学年用ノートを準備する。
- ・それぞれに日替わりで取り組み、次の人に回していく。
- ・保護者からコメントを書いてもらう。
- ・教師もコメントを書く。(担外対応)

【期待される成果】

- ・家庭学習をよりよくしようという子供の態度につながる。
- ・家庭学習内容の質的向上が図られる。

学習日記

【ねらい】

- ・家庭学習の取組状況を振り返り、学習内容と学習時間を子供自身が調整する力を付ける。

【具体的な取組】

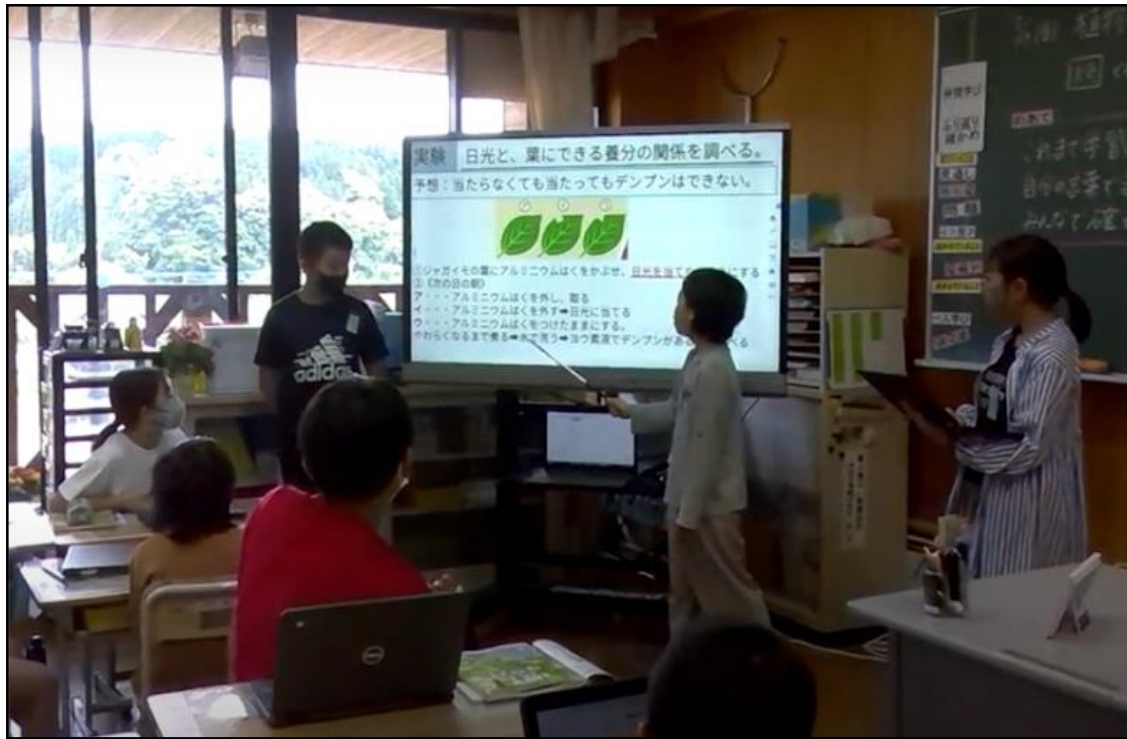
- ・ひと月の1週間を取組期間とする。
- ・「がんばり度」を5段階で自己評価する。
- ・1週間の最後に振り返りを記述する。

【期待される成果】

- ・家庭学習への取組を自己評価することで、次への意欲につながる。

学校名（水上村立水上学園前期課程）

プレゼン力向上に向けて



【ねらい・具体的な取組】

タブレット端末を活用して、単元まとめや新聞づくりに取り組んできたが、それを発信し交流する場面が少なく、相手を意識した表現力（プレゼン力）に課題が見られた。

そこで、今年度は、どの学年でも単元おわりに学んだことをスライド等でまとめ、個人やグループでプレゼンする場面を設定して取り組むようにした。

また、まとめる作業については、家庭学習として取組、学校では、中間発表など相互評価する時間とし、効率的に取組を実施していく。

【期待される成果】

- 単元のゴールを意識した授業づくり
- コメント機能を活用した相互評価
- 相手意識を明確にしたプレゼン力（スライド作成の工夫、声の大きさや目線等）
- プレゼン力の系統性